

新人歯科衛生士が新患患児と出会って得た課題と考察～出会ってくれてありがとう～

○岡野裕美, 梶谷明美, 石通宏行
((医) コアラ小児歯科)

【諸言】

近年、口腔疾患の予防に対し関心が高まってきているが、当院には治療を主訴として来院する患児も少なくない。歯科衛生士が歯科保健指導を行う際、患児及び保護者の主訴・デマンド・ニーズを踏まえることが重要であると考え。保健指導を行うための課題と改善策を考察したので報告する。

【方法】

新人歯科衛生士が保健指導を行い、その後の初回定期検診来院した新患患児及び保護者を対象とした。①年齢別・主訴別に定期検診来院の割合を調査し、初診時治療主訴だった新患患児及び保護者に対する歯科衛生士実地記録の内容を省みた。②初回定期検診来院に使用する問診用紙のうちブラッシング指導と食生活指導の二点の実践状況と定期検診に期待することについて調査した。

【結果】

①初回定期検診来院の割合は、年齢別では差がみられなかったが、主訴別では治療主訴の患児に低い傾向がみられた。歯科衛生士実地記録から、患児及び保護者の口腔の健康に対する関心の程度を推し量ることが出来ず、どの患児及び保護者にも同様な保健指導を行ったことが主な原因として考えられる。初診時には特に傾聴の姿勢が課題として挙がる。②初診時の歯科保健指導について、ブラッシング指導した内容を「実践してみた」は約9割を占め、食生活指導の内容を「新しい知識を得て実践もしてみた」が約6割、「新しい知識は得たが実践は難しかった」が約3割、「ためにならなかった・無回答」が約1割であった。定期検診に期待することは、約3割が「むし歯の予防」を選択した。さらに「予防」の内容として「歯磨き指導・食生活指導・フッ素塗布」から複数可として選択してもらおうと、他の二項目に比べ「食生活指導」選択の割合が低かった。生活の改善は、形には見えないがう蝕予防において重要性が高い。各家庭での行動変容に繋がる食生活指導が課題として挙がる。

症例報告 上顎右側第二小臼歯埋伏を伴う骨格性上顎前突2例

○行成哲弘, 行成由美子, 田中美保, 池田友紀,
池本真実
(医療法人ゆきなり小児・矯正歯科)

【目的】

multi-bracket systemを用いる骨格性上顎前突の矯正治療においては小臼歯を抜歯し被蓋改善、歯牙の再配列を行う場合があるが、正中の偏位を防ぐために左右同名歯の抜歯が推奨されている。しかし今回は上顎右側第二小臼歯の完全埋伏を伴い、治療期間短縮、治療方法の簡素化の為に埋伏歯を抜歯し、左側は第一小臼歯を抜歯した上顎2本抜歯治療例と、同様に下顎第一小臼歯も抜歯した4本抜歯治療例、2例について報告する。

【対象及び方法】

対象患者は2名、治療開始時は共に13歳の女性でSkeletal II、Angle class2 Division1で上顎右側第二乳臼歯が残存し「出っ歯」を主訴に来院された。高橋の分類では第1例が上顎前突の分類1+3+4類、片顎抜歯例、第2例が上顎前突の分類1+3類、4本抜歯例とした。multi-bracket systemを使用し、保定終了時までを報告する。

【結果】

動的治療期間は17ヶ月、14ヶ月でover bite、over jet共に改善され、セファロ分析でも確認された。側貌の改善も十分に満足できる状態となり、18ヶ月の保定期間終了時においても咬合の安定が確認された。

【考察】

今回の2例においては治療期間の短縮、治療方法の簡素化には十分な効果があったと思われる。危惧されていた正中の偏位も確認されず、保定終了時でも良好な状態が保たれていることが確認された。埋伏永久歯の対応においてのひとつの指針となることを望む。